

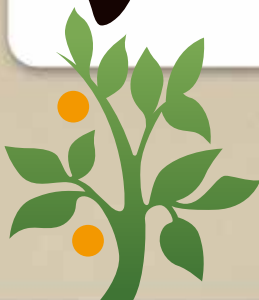
支えあう喜びを新しい世代へ

Issue Number

38

Calebasse

からばす



CARA

ASSOCIATION POUR LA COOPERATION ET L'AUTOGESTION RURALE EN AFRIQUE DE L'OUEST



企画/編集/発行

カラ=西アフリカ農村自立協力会



マリ共和国のホストタウン・ 盛岡市の激動の1年

盛岡市交流推進部スポーツ推進課
スポーツツーリズム推進室

佐藤 玲奈

皆さん初めまして。私は盛岡市の職員でマリ共和国のホストタウン事業を担当しています。

盛岡市は日本で唯一のマリ共和国のホストタウンです。「ホストタウン」とは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に参加する国・地域と文化やスポーツなどを通じて交流を図る自治体のことです。

2020年1月、盛岡市と柔道マリ共和国代表が事前合宿受入れに関する覚書を締結した際に、カラ代表の村上さんのトーク



写真中央が佐藤玲奈さん、ホストタウン契約の日、マリのミュージシャンと

ショーや西アフリカ伝統楽器「コラ」奏者のマッドゥ・ドゥンビアさんの演奏を行いました。盛岡市民の多くはこのとき初めてマリ共和国の暮らしや文化を知りました。

柔道マリ共和国代表選手は今年7月に事前合宿を予定しており、私の仕事は選手の受入れ準備と市民にマリ共和国を応援してもらえるようにPRすることです。恥ずかしながら、今の部署に異動するまでマリ共和国を全く知らず、情報収集から始めることにしました。

インターネット上では旅行者のブログなどが検索できますが、内容は数年前の話で、現状は全く異なります。マリ共和国の最新情報を調べようとしても日本語で作られているページがあまりありません。カラから提供される現地情報はとても貴重なものでした。

2020年3月、新型コロナウイルスの影響で東京2020オリンピック・パラリンピックの延期が決定し、大規模なイベント開催に制限がかかりました。[P2へ→](#)

<http://ongcara.org/>

2021/2/1 発行

NO.38

からばす

延期の期間を使ってマリ共和国柔道連盟へのビデオレター送付や市ホームページでの情報発信などSNSを活用した取り組みを続けました。

2020年8月にマリ共和国でクーデターが起きました。これほどの事件が起きて初めて日本で大々的に報道され、岩手の新聞でも記事になりました。「マリが大変なことになっているね」と連絡をくれた方もいました。マリのことが少しずつ市民に浸透してきたことを実感しました。

2020年12月に盛岡市の広報紙でマリ共和国の特集を組みました。以前にマリ共和国をテーマにしたアートマイル壁画を制作した岩手県立盛岡第二高校美術部の生徒たちは「最初、マリ共和国のことが全く分からず大変でした。でも調べていくうちに、自分たちの描く壁画でマリ共和国のことをたくさんの人たちにもっと知ってもらいたいと思いました」と話してくれました。

また、村上さんに来ていただき、同美術部や家庭クラブなどの生徒と一緒にマリ料理の試食会を実施したときには「私も家で作ってみたいと思いました。たくさんの人に食べてもらいたいです」と話してくれました。彼女たちは刺激を受け自ら行動しようとしており、とても嬉しくなりました。

また、(一社)盛岡青年会議所がマリ共和国へ識字教室を建設するための募金活動を行ってくれました。来年には「コラ」と箏のコラボ演奏やマリ料理を使った食文化体験などを予定しています。これからもマリ共和国とのつながりを続けていけるように今後も取り組んでいきたいと思えます。

今後ともよろしくお願ひいたします。



ホストタウンパネル展でマリの宣伝

はじめに

本号の発刊にあたり、前号2018年2月1日発行の「からばす37号」から今回の38号まで2年間、諸般の都合により、発行出来ませんでしたことをお詫びいたします。

今回の「からばす38号」には、盛岡市役所勤務の佐藤玲奈さんが巻頭文を書いて下さり、盛岡市がマリ共和国柔道選手のホストタウンとして、マリについて多くを広報をしてくださっています。なぜ盛岡市が? と疑問を持たれる方も多いためその理由を少しだけ申し上げます。

それは、村上が盛岡市で中・高等学校時代を過ごしていたことによります。「盛岡市がアフリカのどこかの国



JCI盛岡の方々のクラウドファンディング
岩手日報 2020年11/18朝刊掲載記事

のホストタウンを希望している」ということを友人から聞き、「では、マリはどう!!」とお願いし、それを快諾していただきました。2018年にマリ柔道協会から村上が業務を委任され準備が始まり、2020年1月に正式にホストタウン契約が締結されました。マリ柔道選手はオリンピック開催前の1週間を盛岡市で合宿させていただくことになりました。盛岡市の方々にはマリはどこにある国? リマ? などの疑問もあり、市役所の担当の方々の熱い思いで色々な工夫がなされ、イベントの折には最優先で広報してくださいました。その結果、マリという国を多くの方に知っていただけるようになりました。そして、(一社)盛岡青年会議所さんのご尽力でクラウドファンディングを行って識字教室の建設費を捻出して下さいました。この識字教室は2021年春には完成です。また、盛岡マラソンの黄色いTシャツを頂戴し、マリの柔道選手たちはカラバマコ事務所へ受け取りに来ました。

しかし、ご存じのように2020東京オリンピック、パラリンピックが2021年に開催が延期されました。しかしスポーツの祭典の実施とは別に、マリ共和国とカラの存在が多くのの方々へ広報して下さったことは非常にありがたく、お骨折りくださった方々に深く感謝しております。

表紙右上の写真は、盛岡市役所から贈られた2019年盛岡マラソンの時の黄色いTシャツを受け取りにいらしたマリ柔道連盟の方々です。



マリ柔道選手世話係(左から榎本、村上、大久保)

マリの新型コロナウイルス感染について

全てマリ事務局からの情報提供によるものをお伝えいたします。

マリでは2020年2月、始めて新型コロナウイルス感染者が発見されたと言われています。それ以後、感染が下火になることはなく日々増加の一途をたどっています。

他国の状況に合わせてマリ厚生省でも日本同様の注意・自主喚起を国民に発令しましたが、マスクはバイクを運転している人がバマコで乾季の風が舞い上がる時期に使用するだけで、通常市民は使用していません。基本的にこの国ではマスクをかける習慣が無く、流感や伝染病が蔓延して特別なことがあってもマスクをかけている人を見かけません。更に(個人的な考えですが)感染を増大する原因と思われるのは、彼らにとって大事な金曜日のモスクでの礼拝で、男性は前列に、女性は後ろ側にひしめき合うように並び、声を出してコーランを唱えて礼拝をします。市内の一番の大きなモスクには場外に溢れ出るほどに多くの人が集まり、周囲には露店が並びます。この礼拝の日には地方から出て来る人も多のです。信仰心の強い人たちに密集が良くないからと言って礼拝を中止させることは出来るのでしょうか? マリで生活して人々の日常を目の当たりにしている私の経験からは、どう考えても、病院は必ずしも衛生的とは言えず、検査キットもおそらく充分ではないと思えます。私のとりこし苦労かもしれませんが、静かに低い声で話さずに大声で朗らかに話す人たちですから、予防知識の普及も難しいと思ひ、非常に悲観的な結果を見るように感じています。マリスタッフから送ってくる感染

者数や政府の抗コロナ対策を読みますと、日本の3.3倍もある国で、字を読めない人や遊牧の人たち、そして国の統治を考えると、更に心配は増すだけです。

2020年12月18日には大統領通達でこの日から10日間の緊急事態宣言が発令されましたが、改めて2021年6月26日午前0時までと期間が延長されました。内容は、年末から年始にかけて2週間のイベント禁止。2021年1月4日までレストラン、バーその他の飲食店と商店の閉店、小中学校の閉鎖。モスクでの礼拝、結婚式、葬式、洗礼式の参加者を50名を上限としました。そして国境、空港の取り締まりの更なる強化などが決められました。ちなみに2020年12月30日の感染者数は233人と報告されています。

2020年のマリ共和国は、この新型コロナウイルス感染問題だけではありませんでした。8月に前大統領(イブラヒム・ブバカリ・ケイタ氏)の解任要求のクーデターが発生しました。まさに新型コロナウイルス感染騒動の最中でした。革命広場に集まった人は殆んどマスクをかけておらず、大声でアピールする重なり合うような人の波を見ると、国民の非常な怒りと苦しみが迫って来るようでした。感染するからといって大統領の不正をそのままにしているのか、マリ国民を襲ってきた悲劇でもあると思いました。しかし、9月には2021年7月までの暫定政府が成立しています。

マリ共和国農村地域への過去2年間の事業

既にお届けいたしております年次報告書でご存じとは思いますが、カラが30年近く継続してきた村人の自立した生活支援事業は、全ての事業を村へ移管し、現在は、それらが人々の経済の力として活用されています。現在、現地に一人だけ連絡担当として雇用しているムーサジャラからの連絡では「何の問題も無い、大丈夫」と報告を受けていますが、私はその言葉を尊重しながらも、アフリカ人の言う【大丈夫】や【問題ない】は、日本人のそれとはいささか異なるので、その点が多少気になるところです。カラマリスタッフが現地の村へ入るのが制限されていますので、思うように視察に行くことは出来ませんから、ムーサとの連絡は常に携帯電話となっています。

事業は

- バブグ村玉ねぎ保存庫の建設
- ネゲタブグー村女性センターの建設(兼識字教室)
- シンザニ村及びバンザンドウ村へ識字教室の建設、の4件が行われました。



子供を抱きかかえて勉強中の母親



識字学習に集まった女性たち

これらの事業に必要な経費は、カラの会員の方々の年会費とご寄付、WF基金さんからの助成金、宮城学院中・高等学校生徒会・PTAさんのご支援に依るものです。

建設された建物は、常に村の人たちに有効に使用されていますが、2020年12月、2021年1月は新型コロナウイルス感染予防の為に使用が禁止されているとのことでした。

日本国内での活動は、毎年大盛況のカラコンサート「かけはし2018」では原田康子さんと、フラメンコダンサーのやのちえみさんをゲストにお迎えして開催し、大勢のお客様と共に歌と踊りに魅惑的な時間を過ごしました。

翌年の「かけはし2019」では原田康子さんとアルパ奏者の菅原ふみさんにゲスト出演をお願いしました。当日の菅原さんの舞台衣装のパラグアイのレースの民族衣装はとても美しく繊細で、演奏後は女性のお客様が触ってみたり写真を撮ったり、と大人気でした。

しかし残念なことに「かけはし2020」はコロナウイルス感染予防の為に開催中止といたしました。

2020年1月21日「柔道マリ共和国代表TOKYO2020事前合宿覚書締結式」の日にはマリにおけるカラの活動が披露され、当日のTVでも放映されました。



バブグ村玉ねぎ保存庫内部



マリでのカラの活動の実際を説明

2020年度の新規事業

新事業は早くから計画され、日本事務局からの送金も済ませて事業の開始を待っていましたが、クーデター騒動や新型コロナウイルス感染の影響を受けて2020年の農閑期(12月)から行われる予定でした。しかし、更に遅くなり事業の開始は2021年1月に入ってからということです。

新規事業の内容は、浅井戸の4基掘削(ネゲタブグー、ドゴ、ニヤマコロブグー、セリブグー村)と、チェンチェンブグー村の野菜園造成(浅井戸1基と金網製の防護柵設置/0.5ha)が始まります。

そしてシラブレ村へ識字教室を、先述の盛岡青年会議所さんの盛岡市民からのクラウドファンディングに依る支援金で建設予定です。この募金は【シラブレ村女性の為の識字教室建設】という目的に協力的な盛岡市の女性の方々からの支援が多かったそうです。青年会議所の方々は、毎週土曜の午後に開かれる地域の「市」で募金を行って下さり、瞬間に100万円以上が集ったそうです。支援の気持ちが非常に強いことに深く感謝し、改めて責任の重さを感じています。



カラマリが現地で獲得した資金による事業 (日本以外の国からの資金)

現在二つの事業が計画され、そのうち下記の第2の事業が先に実行される見込みです。事業の申請にはカラがマリで行ってきたこれまでの活動の経験と成果が認められ、問題なく申請書が受理されたようです。(申請順に第1、2としました)

第1の事業は、2019年にUNDP(国際連合開発計画)に申請した5年計画の植林事業で、**【貧困脱出を試み、自然環境を保護し、食料の自給を可能にする】**目的の事業です。この事業対象地域はセグー県とクリコロ県の1000ヶ村で、女性と若者を対象とした植林事業です。植林計画だけでなく将来的にはオリーブオイルやカリテ油の精油工場の開設も展望に含まれています。そして野菜園造成から乳幼児死亡率ゼロをも目的としています。これはとても大きなプロジェクトで、順調に進めば多くの若者の雇用も可能になるため、ぜひ成功してほしいと思っています。まだ正式に許可は下りていませんが、この申請もこれまでのカラの経験が認められているということで、希望を持っています。

Covid19が収束したら正式に契約されて事業が開始される予定ということです。

第2の事業は、USAID(海外援助を目的とするアメリカ合衆国国際開発庁)の資金で実施されます。現在のCovid19感染による経済的に困難な状況を救済する目的の事業で、バマコ市内の第5・6コミュンをカラが受け持ち、既存の女性の活動を更に活性化して増収を図るのが目的です。2020年11/18に申請が受理され、事業の契約を行いました。事業費は約500万円弱で、6ヶ月の事業期間に限定されています。計画上は12月から実施される予定でしたが、事業費の入金が遅れていてまだ始まっていません。事業内容はCovid19に対する感染対策、さしあたってはマスクをかける習慣をつけることから始まり、女性適正技術の指導、販路、管理、その他関連事項についてです。

カラとしては非常に手慣れた事業で、2021年6月終了の予定です。

これらの事業の視察にも日本から出向くことは出来ないので不安な点もありますが、スタッフの力を信頼してマリからの報告を待つ状況です。

カラは30年近くマリの農村のインフラを整えてきましたが、未だに多くの村では井戸も不足しており、依然インフラが整っているとは言えない状況です。現在は多くの支援団体から助成金を受けて事業経費を賄っていた以前とは違い、小規模に進めている状態ですが、それでもなお多くの方々のご支援を頂戴して事業を継続しております。今後とも皆さまのご支援をお願いいたします。

カラ=西アフリカ農村自立協力会

<http://ongcara.org/>

東京事務局

〒177-0054 東京都練馬区立野町7-9 クリオ吉祥寺壺番館101

Tel:03-3929-5767

E-mail: centre@ongcara.org

バマコ事務局

BP E367 BAMAKO MALI

Tel:223-2020-9096